

科目名称：	器楽 I	
担当者名：	朝倉 喜裕、水上 和子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
<p>保育現場に必要なピアノ演奏、弾き歌い技術を身につけましょう。保育現場で音楽を活かすことは、子どもの心身の発達に大きく関わり、五感を磨き、自然や物事に対する喜びの心を育てます。したがって音楽活動の元となるピアノ演奏、弾き歌い技術を習得する必要があります。保育現場の日々の生活の中、表現活動、諸行事において活用できるようになるため、各自の進度にあわせた課題で練習し技術を身につけましょう。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>ピアノは入学時点の能力に応じたグレードから始め、音楽の3要素である、音符（高さ、長さ）、リズム、和音を理解する能力を養いながら、ピアノ奏法（姿勢、指・手・腕の使い方、動かし方、等）を習得いたします。またピアノとともに音楽の元である歌の大切さも理解し、弾き歌い習得にも力を注ぎます。ピアノは前半、後半、それぞれ1グレード以上進むこと。弾き歌いは前半、後半にそれぞれ5曲の課題を仕上げる。余力のある場合はグレードを飛び級でき、弾き歌いは補充曲に挑戦することもできます。授業8回目と15回目には発表を実施し、次に繋げて行きます。</p>		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。	
DP(2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	○
DP(3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身につけている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)		90	10		100
幼児教育DP(3)					0
幼児教育DP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容1》	《経験年数1》
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 各学生のピアノ習熟度をチェックし、開始グレードを指示、説明する。	前期前半の課題確認と自身の練習計画構築及び練習課題の予習	60分
第2回 各グレードのピアノ曲、弾き歌い課題のレッスン	各自の受講曲の復習と他の前期前半課題の予習	60分
第3回 各グレードのピアノ曲、弾き歌い課題のレッスン	各自の受講曲の復習と他の前期前半課題の予習	60分
第4回 各グレードのピアノ曲、弾き歌い課題のレッスン	各自の受講曲の復習と他の前期前半課題の予習	60分
第5回 各グレードのピアノ曲、弾き歌い課題のレッスン	到達度チェックと前半発表までの練習計画再築及び課題の復習・予習	60分
第6回 各グレードのピアノ曲、弾き歌い課題のレッスン	各自の受講曲の復習と他の前期前半課題の予習	60分
第7回 各グレードのピアノ曲、弾き歌い課題のレッスン	前期前半発表のための全曲練習	120分
第8回 前期前半の発表（プレゼンテーション）	前半課題練習の反省と前期後半課題の練習計画の構築及び練習課題の予習	60分
第9回 各グレードのピアノ曲、弾き歌い課題のレッスン	各自の受講曲の復習と他の前期後半課題の予習	60分
第10回 各グレードのピアノ曲、弾き歌い課題のレッスン	各自の受講曲の復習と他の前期後半課題の予習	60分
第11回 各グレードのピアノ曲、弾き歌い課題のレッスン	各自の受講曲の復習と他の前期後半課題の予習	60分
第12回 各グレードのピアノ曲、弾き歌い課題のレッスン	到達度チェックと後半発表までの練習計画再築及び課題の復習・予習	60分
第13回 各グレードのピアノ曲、弾き歌い課題のレッスン	各自の受講曲の復習と他の前期後半課題の予習	60分
第14回 各グレードのピアノ曲、弾き歌い課題のレッスン	前期後半発表のための全曲練習	120分
第15回 前期後半の発表（プレゼンテーション）	前期反省と後期課題の確認及び練習	120分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである。
前半後半2回の発表の状況で評価 前半習熟度チェック45% 後半習熟度チェック45% レポート10%

課題に対するフィードバック

習熟度確認シートを使用し、学生の習得度をフィードバックしている。

教科書・参考書

ピアノ課題、弾き歌い課題冊子。幼児保育の歌とリズム（音楽之友社）。
バーナム ピアノ テクニック 導入書、1（全音楽譜出版社）